

項 目		内 容
供給	1. 国内	(1) 平成28年10月単月の実績は、推計で入雞羽数が前年比99.2%、処理羽数で前年比98.5%、処理重量で前年比97.2%と全ての項目で前年を下回った。10月は、関東、中部、九州地区で処理羽数が前年に比較して下回った。特に、南九州産地で台風被害による死鳥発生等の影響が残り、一部の工場では臨時休業となる等処理羽数が減少した。また九州地区は、今年は雨が多かったことから床湿り等で病気の発生も多く、育成も不調となっていたことから処理重量も計画を大きく下回った。 (2) 平成28年11月～平成29年1月の計画では、11月、1月が全項目で前年を上回っているものの、最必要期の12月は前年を下回る予測となっている。11月は気温の低下により育成も順調となったため、各産地とも出荷羽数、重量とも前年を上回る見込みとなっている。12月は昨年より土曜日が1日多く、稼働日が昨年より1日少ない産地もあること等が数量減少の一因となっているものと考えられる。
	2. 輸入	(1) 輸入鶏肉の平成28年10月通関実績は50.1千トン（前年比87.5%）と、前月より8千トンの増加となったものの、ブラジルからの輸入が大幅に減ったこと（前年比83.9%）により、前年を大幅に下回った。一方で、タイからの輸入は順調に伸び（前年比113.3%）しており、今後11月にかけては最必要期を迎えることで、輸入品全体での輸入数量は増加してくるものと予測されている。輸入は加工仕向けの原料が中心ではあるものの、国産の不足を補うため解凍されてテーブルミートとしても出荷しており、一定の需要は獲得しているようだ。 (2) 鶏肉調製品は、平成28年10月通関実績が35.5千トン（前年比91.1%）と前年を下回った。輸入国別で見るとタイ産で前年比91.8%、中国産は88.7%となっている。一方、調製品の年間累計輸入数量は前年を上回っており、外食やコンビニ向けでの輸入は増加傾向が続いている。
需要	1. 家計消費	(1) 総務省家計調査による平成28年10月の全国一世帯当たりの鶏肉消費量は1,426²（前年比103.6%）、金額は1,303円（前年比100.4%）となり前年を上回った。数量は、鍋物需要を中心に前月から大きく伸びて前年を上回り、金額でも5カ月ぶりに前年を上回った。また、気温の低下やTVCMの効果等もあり、量販店の販売がもも肉や手羽元を中心に伸びたことで金額も前年を上回った。
	2. 量販・卸	(1) 食品スーパー等の総売上高は、既存店ベースで前年を上回り、畜産部門も既存店ベースで前年を上回った。鶏肉に関しては気温の低下に伴って鍋物需要が高まり、白菜等の野菜価格が高騰しているものの販売は順調に推移している。牛豚肉は相場高が続いており、今後も鶏肉の需要は堅調に推移して行くものと思われる。
	3. 業務・加工筋	(1) 加工仕向け原料は、むね肉でつみれ原料の引合いが強まっており、国産のひつ迫感は続いている。ささみはやや需要が落ち着いてきたものの、加工原料としての定期需要があり、鶏肉は総じて冷凍品の余剰感はないとの声が聴かれる。
在庫	1. 28年9月	(1) 平成28年9月の推定期末国内在庫数量は国産が25.6千トン、輸入品在庫も139.5千トンと前年比で大きく増加している。国産在庫は、生産の回復と一部夏場の販売停滞から増加となったものの、輸入数量の減少で輸入品在庫は減少となった。
	2. 見通し	(1) 国産在庫は、全国で育成が回復してきたこと、量販店の販売がやや緩んだこと、クリスマス、年末に向けた在庫確保、加工品製造の本格化等により、増加傾向となった。今後も最必要期に向け、増加傾向は続くものと考えられる。 (2) 輸入品は、9月の通関で数量が減少し、出荷量が前年並みであったことから国内の輸入品在庫は減少となった。今後、最必要期に向けた11月には輸入数量は増加することが予測され、在庫は再び増加傾向になるものと思われる。
相場	1. 11月動向	(1) 平成28年11月の相場は、もも肉640円/kg、むね肉271円/kgと、前月比でもも肉が17円/kg、むね肉は7円上げの正肉合計で24円/kg上げとなった。もも肉、むね肉ともに、気温の低下から鍋物を中心として需要が一気に高まって相場は一段上げたものの、野菜の価格高騰等もあり中旬から下旬にかけては保合いでの展開となった。
	2. 12月見通	(1) 12月に入り、鶏肉業界は最必要期を迎えることもあって販売は盛り上がりを見せている。もも肉、手羽元を中心に動きは活発となっており、この動きにつられる形でむね肉、手羽先の動きも順調で相場も12月中旬以降は上げ調子になってくるものと思われる。もも肉相場は、12月中旬までは保合いで推移し、連休前から一気に上げて月平均で665円程度になるものと思われる。むね肉相場は、需要は高いものの生産も順調となることが予想され、ほぼ保合いの275円程度になるものと思われる。